

平成22年度 全員参加の地域づくり推進事業 取組結果

事業名	さきたま古墳公園を核とした行田地域の魅力アップ事業
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 さきたま古墳公園をはじめ各観光資源が地域の活性化に十分生かされていない。 2 このため、多くの観光資源を持ちながら行田市内への観光入り込み客は減少傾向にある。
めざすべき方向性	行田の観光資源を核とした北埼玉地域全体の活性化につなげる。
事業目的・内容	<p>全員参加による行田地域の魅力アップに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さきたま古墳の魅力アップ ・ 観光資源のネットワーク化
活動主体	埼玉県・行田市・行田商工会議所・NPOぎょうだ足袋蔵ネットワーク等
主体ごとの取組	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 県の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 丸墓山古墳の露出 ・ 園内順路の明確化及び博物館への誘導促進 ・ イベント広場の活用方策検討 ・ 統一デザイン観光標識の検討 ・ さきたま古墳への観光客の誘致 ・ 旧忍川遊歩道への案内看板の整備 ◎ 地域の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ おもてなし甲冑隊によるPR活動 ・ B級グルメ大会のイベント会場での開催 ・ 観光レンタサイクル拠点の整備 ・ おもてなし講座の開催

【県の取組結果状況】

<p>Ｈ２２年度に 取り組んだ事業</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 丸墓山古墳周辺（旧民地との境界）の雑木林の剪定・ 園内誘導標識等設置（５箇所）・ さきたま古墳公園広場の活用方策報告書作成・ 行田地域観光案内標識ガイドライン作成・ 道路案内標識設置（２箇所）・ 旧忍川遊歩道案内看板設置（１箇所）
<p>上記事業について 成果があった点</p>	<ul style="list-style-type: none">・ さきたま古墳公園周辺に道路案内標識を設置するとともに、園内の誘導標識を設置したことから、公園利用者の利便性が高まった。・ 「市街地→さきたま古墳公園→古代蓮の里」と行田地域の観光資源のネットワーク化が進んだ。

平成22年度 全員参加の地域づくり推進事業 取組結果

<p>事業名</p>	<p>川幅日本一地域おこし事業（川幅日本一地域元気アップ実行委員会）</p>
<p>現状と課題</p>	<p>川幅日本一を活用した地域おこし事業は、平成20年に日本一であることが確認された後、平成21年度に実行委員会を立ち上げ、平成22年度からPR事業を展開している。</p> <p>実際には川幅部分は河川敷を多く含んでいることから、景観的に川自体の広大さは感じられないが、そのイメージを利用した川幅うどんなどの特産品が多くのマスコミで取り上げられるなど注目を集めている。</p> <p>今後訪問客をさらに増加させるため住民を含めた地元市町の盛り上がりと継続的な活動が必要と考えられる。</p>
<p>めざすべき方向性</p>	<p>川幅日本一地域の名所化</p>
<p>事業目的・内容</p>	<p>鴻巣市と吉見町の間を流れる荒川の川幅が全国最長（2,537m）であることが確認されたことを受けて、川幅日本一を活用した地域の活性化を目指している。</p> <p>川幅日本一の認知度を高めるとともに、鴻巣市・吉見町の観光スポットや特産品などを紹介する川幅日本一PR事業を展開している。</p>
<p>活動主体</p>	<p>埼玉県・鴻巣市・吉見町・鴻巣市商工会・吉見町商工会</p>
<p>主体ごとの取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 川幅日本一地域元気アップ実行委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 散策マップ・ポスターの作成 ・ 記念撮影用ゆるキャラ顔出しパネルの作成 2 県 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県道東松山鴻巣線の歩道橋（2カ所）及び御成橋高欄等（2カ所）へのPR看板の設置 3 住民・市町 <ul style="list-style-type: none"> ・ グルメ・特産品販売拡大、「川幅花火」の打上げ、ゆるキャラグッズ販売

【県の取組結果状況】

<p>H22年度に 取り組んだ事業</p>	<p>歩道橋等へのPRパネルの設置</p>
<p>上記事業について 成果があった点</p>	<p>横断歩道橋へPRパネルを設置したことで、「川幅日本一」の資源価値を認識しやすくなった。</p> <p>さらに、ドライバーをはじめ、観光やサイクリング、ハイキングで訪れた人が一目でわかることで、「川幅日本一」に親しむきっかけとなった。</p>

平成22年度 全員参加の地域づくり推進事業 取組結果

事業名	環境にやさしいまちづくり（熊谷市）
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 熊谷市では日本最高気温40.9℃を記録（H19. 8. 16） 2 ヒートアイランド対策推進宣言都市として、まちが暑くならない対策を実施
めざすべき方向性	「経済・生活・環境」が高い水準で調和した地域づくり
事業目的・内容	<p>エネルギー消費を低減するため、地域の顔ともいえる熊谷駅北口周辺（県道熊谷停車場線）を環境に優しい構造へ見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道の保水性ブロック舗装及びアーケード撤去 ・ 自転車レーンの設置
活動主体	埼玉県・熊谷市・熊谷商工会議所・地元商店街・地元自治会・ロードサポーター等
主体ごとの取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 熊谷停車場線整備事業（県、市、地元商店街） <ul style="list-style-type: none"> ・ ①保水性ブロック舗装②地元商店街などの協力を得て打ち水など実施 2 「あつさはればれ 熊谷流」プロジェクトの実施（市） <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊谷駅前広場の冷却ミストの設置、熱中症予防情報発信などを実施 3 熊谷市中心市街地に関する各種検討 <ul style="list-style-type: none"> ○ 熊谷市道路空間整備推進委員会（国、県、県警、市、大学、自治会ほか） <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊谷市中心市街地について整備主体が連携して自転車走行環境、バリアフリー、景観など道路空間の検討を行い整備方針を定める。 ○ エコまちづくり事業（国、県、市、大学、自治会ほか） <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊谷市中心市街地地区（123ha）において、ヒートアイランド現象緩和等の観点から検討を行い、都市環境改善に資する計画を策定する。

【県の取組結果状況】

<p>H22年度に 取り組んだ事業</p>	<p>① 熊谷停車場線（熊谷駅～国道17号）の歩道の保水性ブロック舗装及びアーケード撤去</p> <p>② 効果測定の実施</p>
<p>上記事業について 成果があった点</p>	<p>① 熊谷停車場線の整備が完了し、歩行者等の安全性の向上が図られた。</p> <p>② 保水性ブロック舗装による気温低減の効果が確認できた。 （路面から150cmでは、10時で最大1.8℃の低下を観測）</p>

平成22年度 全員参加の地域づくり推進事業 取組結果

事業名	西川口B級グルメタウンのまちづくり
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主催者の変遷はあるが、平成20年度から3年連続開催となる西川口B級グルメ大会は、H22年度には西川口駅東西両口開催へと発展したことにより約5万1千人の来場者があり、イベントとして定着しつつある。 ・ またチャレンジ店舗への支援などにより空き店舗の減少が一段と進んでいる。 ・ 街づくりについては、町会、商店会、民間団体、県議、市議、警察、行政等が参加する、市を挙げての協議会が発足し、街づくりビジョン策定を進めている。 ・ しかし、地域のイメージを一新するまでには至っておらず、街づくりの新たな展開が必要である。
めざすべき方向性	街づくり懇談会の議論を通じ、地域が一体となった街の活性化を推進する。
事業目的・内容	<p>西川口の高いポテンシャルを活かして全員参加の西川口づくりを支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 路面店の空き店舗の解消 ・ B級グルメ大会、国際屋台村の開催 ・ 西川口再生の取組
活動主体	埼玉県、川口市、商工会議所、地元商店会、地元町会、大学、警察
主体ごとの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の取組： チャレンジショップ家賃補助 ・ 川口市の取組： 街づくりビジョン策定を目指して懇談会及び3部会を設けて議論を進めている。 ・ 商店会、商工会議所の取組： B級グルメ大会、国際屋台村の開催

【県の取組結果状況】

<p>Ｈ２２年度に 取り組んだ事業</p>	<p>・チャレンジショップ家賃補助（７店舗）</p>
<p>上記事業について 成果があった点</p>	<p>１１の飲食店が開店し、路面店の空き店舗がＨ１９年度に比べ、半分以下になり、街並みが活性化した。 （空き店舗数：Ｈ１９年度５２店舗 → Ｈ２２年度２０店舗）</p> <p>空き店舗に飲食店が入ることにより、健全な商店街に再生しつつある。</p>